

最近の刊行物

農林水産政策研究

- 第33号 2020年12月 **【調査・資料】**
福田竜一・草野拓司・寺林暁良
広域的総合農泊地域の可能性と課題—徳島県西部地域を対象として—
- 小野智昭・吉田行郷・石原清史・平林光幸・福田竜一・畠幸司・吉井邦恒
東日本大震災津波被災地域における水田農業復興の現状
—農業構造変化と組織経営体の諸特徴—
- 川崎賢太郎
農業政策の効果測定手法：回帰不連続デザイン

都市住民プロジェクト研究資料

- 第2号 2020年10月 農山村への移住・定住の促進に向けた取組に関する研究
- 第3号 2020年10月 地域資源を活用した農村振興—社会組織の連携構造のネットワーク分析—

需要拡大プロジェクト **【輸出】** 研究資料

- 第2号 2021年3月 主要農水産物の輸出の現状と輸出に向けた取組

連携研究スキームによる研究 **【農福連携】** 研究資料

- 第1号 2021年3月 農福連携の地域経済・社会への効果と効果的な発揮に関する研究

編集後記

前号では、当研究所が20周年を迎えるタイミングで本誌の100号を刊行することになり、「農林水産政策研究所レビューNo.100・農林水産政策研究所20周年記念号」を企画しました。

当研究所が改組して求められる役割が変わる中、当初は所内で戸惑いも見られたというのが正直なところです。行政部局との連携も最初からスムーズにいったわけではありません。それでも一つ一つの課題に向き合い、研究体制を整備し、行政部局との信頼関係を積み重ねていったのがこの20年でした。2004年4月～2008年7月に当研究所に在籍した私は、研究部・室制が領域・チーム制に変わり、行政部局の要請にどう応えていくのかを当研究所全体が模索する状況下で仕事をしていました。私自身も記念号の原稿を読みながら当時が思い出され、感慨深いものがありました。

本号では、創立20周年シンポジウムの概要紹介記事を掲載しております。シンポジウムでも当研究所の足跡を振り返りつつ、今後の政策研究のあり方について多岐にわたった議論が行われました。これからも変動する社会情勢を見据えつつ、当研究所の役割を考え続けていくのでしょうか。

(担当：H)